



将来像Ⅲ

方針 3

災害に強いまちづくり

阪神・淡路大震災では、
近隣住民等によって救助された人の
割合が約8割なんだって!?
いざという時にみんなで力を合わせ
助け合うために、日頃から
何をすればよいか。



現状

平成23年3月の東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。その後、平成28年4月の熊本地震、平成30年6月の大阪府北部の地震、9月には北海道胆振東部地震などの大規模地震が発生し、全国各地で大きな被害が発生しました。

「南海トラフ巨大地震」は、発生確率が今後30年以内に70～80%と切迫度が増しており、瑞穂区で最大の死者数が約200人(全市：約6,700人)、最大の建物全壊・焼失棟数が約4,000棟(全市：約66,000棟)という甚大な被害が想定されています。また、瑞穂区の南西部の一部地域では津波による浸水が想定されています。

近年、平成30年の7月豪雨(西日本豪雨)など全国的に集中豪雨が多発するとともに、令和元年9月の台風第15号による大規模な停電や10月の第19号による河川の氾濫など、各地で風水害による甚大な被害が発生しています。

こうした中、学区での防災訓練の実施や町内単位での自主防災訓練の促進を図っています。

課題

- ◆一人ひとりが、家具固定や耐震化対策を意識し、被害の軽減に取り組む必要がある。
- ◆大規模災害時には、地域で助け合っ、安否確認、避難行動、救出活動等を行うことが重要であり、地域の実情に応じて「助け合いの仕組みづくり」や自主防災組織を育成するなど、地域防災力を向上させる必要がある。
- ◆関係行政機関などが連携・協力し、災害時に迅速かつ円滑な対応が行えるよう備える必要がある。
- ◆一人ひとりが、指定緊急避難場所と指定避難所の違いや災害の種別に応じた指定緊急避難場所及び避難方法を理解しておく必要がある。

ほのぼのと安心して安全に暮らせるまち

【防災】安心・安全【快適な環境】

自助、共助、公助の理念のもと、自分で自分や家族を守り、また住民や事業者が助け合っ地域を守るとともに、行政が連携することにより、災害に強いまちになります。
また、犯罪や交通事故、火災がなく、住民にも来訪者にとっても安心して安全なまちになるとともに、区民や事業者、行政等が協働しごみを削減するなどにより、環境への負荷が最小限に抑えられ、かつ犬や猫とも共生できる快適なまちになります。

FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023



施策

6

自助(家庭)、共助(地域)、公助の力を高めた災害に強いまちづくりを進めます

実現させるための方策

自助力の向上

家具固定、住宅の耐震化及び備蓄品の備えの重要性について啓発するとともに、災害時の適切な避難行動等を周知します。また、家具固定のボランティア派遣などの体制づくりを進めます。



共助力の向上

地区防災カルテを活用した話し合いを行い、カルテの内容を深めるとともに、必要な防災活動や「助け合いの仕組みづくり」に取り組むことにより地域防災力の向上を図ります。また、自主防災組織の取り組み状況や地域の実情などを考慮したうえで、必要な訓練を提案するなど、より実効性のある自主防災組織となるよう支援します。

公助力の向上

関係公所(署)などと連携して実践的な凶上訓練や情報伝達訓練等を実施し、職員の防災意識を高めます。



名古屋市消防局
「防災・減災」
啓発キャラクター
ジイジヨ

地名の由来 . 1

『浮島町』

かつてこの付近一帯は、沼地で潮の干満のたびに、小高いところが島のように浮いて見える土地ができ、これを浮島と呼んでいたことによると伝えられている。
(「瑞穂区 歴史から学ぶ防災」より)



瑞穂区の地形も知ろう

名古屋市のほぼ中央に位置する瑞穂区の地形は、東部の八事丘陵、中央部の瑞穂台地、西部の沖積低地へと移行しています。瑞穂区には、縄文・弥生時代から人の住んだ跡が多く残っており、「大曲輪(おおぐるわ)遺跡」「欠上(かけがみ)貝塚」「下内田貝塚」など多くの遺跡が発見されています。

そして、堀田通以西は海、井戸田付近は海に突き出た岬、瑞穂通に入り込んだ海には山崎川が注いでいました。縄文時代には、大曲輪遺跡がある瑞穂運動公園付近が海岸線であったとされており、平安時代には、新瑞橋付近が河口であったとされています。現在ではその面影はありませんが、「塩入町」や「内浜町」など海の近くであったことに由来した地名が今も残っています。
(「瑞穂区 歴史から学ぶ防災」より)

特選
コラム

実現させる
ための方策

山崎川の堤防補強

南海トラフ地震に備え、山崎川の堤防の補強を順次進めます。



成果指標

指標	現状値	目標値
災害に強いまちづくりができていると思う区民の割合	55.9%	60%
地区防災カルテを活用した防災活動に取り組んでいる学区の割合	9.1%	100%

地名の由来 .2

『船原町』

鎌倉時代までは、現在の堀田通一带は、伊勢湾の入江で全体が海辺になっていた。海上交通の便である船着場と波打ち際の原っぱの自然な情景から付けられたといわれている。
(「瑞穂区 歴史から学ぶ防災」より)



4



5

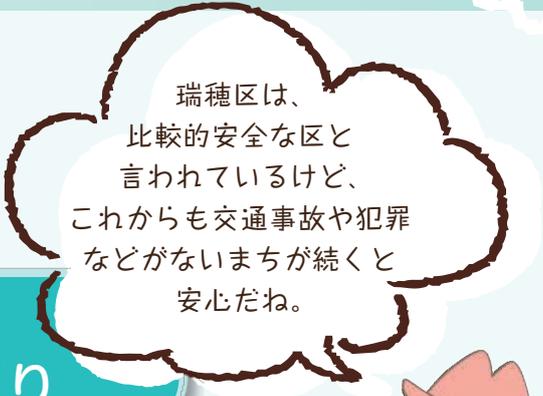


FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023



方針 4

安心して 安全に暮らせるまちづくり



瑞穂区は、比較的安全な区と言われているけど、これからは交通事故や犯罪などがないまちが続くと安心だね。



現状

瑞穂区は、犯罪や交通事故、火災が少なく、比較的安全な区とされています。

刑法犯認知件数は減少傾向にあります。住宅対象侵入盗や特殊詐欺による被害は増加傾向にあります（令和元年の刑法犯認知件数は市内最少）。

人身事故件数は減少傾向にあり、令和元年は過去5年で最少でした。また、令和元年の交通死亡事故は0件でしたが、平成30年には死亡事故が発生し2名の尊い命が失われました（令和元年の人身事故件数及び死傷者数は市内で2番目に少ない）。

また、適切に管理されていない空家等やいわゆるごみ屋敷は、防犯・防火上の危険や景観を損なうなど、周辺的生活環境に悪影響を及ぼします。

火災に関しては、市内で6番目に少ない区です（令和元年）。

地域では、日頃から防犯活動や交通安全活動、防火活動が活発に行われています。

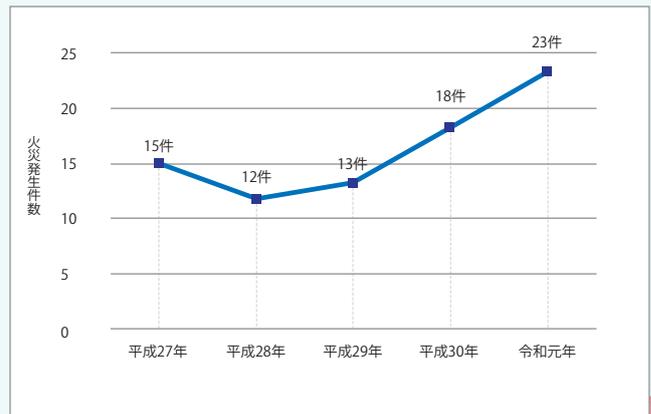
●交通事故発生状況



●犯罪発生状況



●火災発生状況



※発生地別に集計したもの（愛知県警察本部生活安全総務課で集計）



課題

- ◆交通事故発生の原因や実態に即した効果的な対策を行い、交通ルールの遵守やマナーの向上など、安全意識の高揚を図り、交通死亡事故ゼロをめざす必要がある。
- ◆一人ひとりが防犯意識を持ち、地域における防犯力を高めていく必要がある。
- ◆増加傾向にある罪種など、犯罪情勢に応じた対策が必要である。
- ◆家屋の破損や立木等の繁茂など、周辺地域に危険や悪影響を及ぼす空家等への対応については、関係機関が連携・協力して適切な管理がなされるように取り組む必要がある。
- ◆住居の堆積物による不良な状態は、周辺道路へのはみ出しや不法投棄の誘発など、周囲の生活環境に様々な悪影響を及ぼすため、その解消を図る必要がある。
- ◆火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器の設置を全世帯に促し、火災の発生を防ぐ必要がある。

6



施策

8

犯罪や交通事故のない、安心・安全な地域づくりにつとめます

実現させるための方策

- 区役所・警察署・土木事務所の連携**
交通死亡事故・重体事故発生時において、警察署、土木事務所と事故分析の共有を図り、対応について協議します。
- 交通安全の推進**
交通ルールの遵守やマナーの向上など、交通安全意識の高揚を図ります。
- 犯罪の抑止**
警察署と連携を図りながら犯罪の発生状況を地域に周知するとともに、状況に応じた効果的なパトロールや啓発活動を行います。
- 空家等の適切な管理促進**
適切に管理されていない空家等について、関係機関と連携して所有者等への指導や適切な管理を促進するために情報の提供など必要な援助を行います。
- 住居の堆積物による不良な状態の解消**

不良な状態の解消に向けて、関係機関が情報共有し連携しながら、必要な支援や指導を行うことにより、早期の解消につとめます。



F
V
M

2020-2023



施策 9 安心して安全に利用できる道路や公園等を提供します

実現させるための方策

- 交通安全対策の実施**
交通事故を無くすため、対策の必要がある箇所において、道路の交通安全施設を整備し、適正に維持管理します。
- 歩道のバリアフリー対策の推進**
障害者や高齢者も安心して安全にまちな出られるように、歩道のバリアフリー対策を進めます。
- 公園や街路樹等の維持管理**
暮らしの安全や快適を守るため、公園や街路樹、河川を適正に維持管理します。



名古屋市緑政土木局
直営補修班
イメージキャラクター
どりょくん

施策 10 家庭と地域における防火対策を進めます

実現させるための方策

- 防火対策の普及促進**
住宅用火災警報器の設置及び取り換えなど防火対策についての啓発を行います。



名古屋市消防局
マスコットキャラクター
ケッシー

成果指標

指 標	現状値	目標値
安心して暮らせると 思う人の割合	85.9%	90%
年間交通事故死者数	0人	0人
犯罪率※	16区中3番目に少ない(5.18件)	16区中1番少ない

※犯罪率：人口1,000人あたりの刑法犯認知件数

特選
コラム

江戸時代からの構想！
東の堀川“新堀川”

前身は精進川という大雨のたびに氾濫するような、低湿地を流れる曲がりくねった川でした。明治37年(1904)、日露戦争が始まり、周辺の湿地帯に兵器工場を建設することになりました。それに伴い、精進川改修工事を行い、掘削で出た土は、用地の埋め立てに使いました。工事は明治43年(1910)に完成し、工場と港を結ぶ運河となりました。新堀川と名前を変えた川の沿岸には、砲兵工廠、日本車両、服部紡績、日本碍子などの大工場が立ち並び、工場で働く工員が集まり、まちを活気づかせ、商売を呼び、人が多く住まう住宅を形成していきました。
(「瑞穂区近代の歴史散歩 一身近な「地域遺産」発見・発掘」より)





まちにゴミや
犬・猫のフンが
落ちていとまちが悲しむよ。
こんなまちは“NG”!!
みんなで
快適なまちにしよう!



方針 5

きれいで快適なまちづくり

現 状

地域と協働した清掃活動や空地进行をきれいにする運動を実施しています。

家庭から排出される資源のうち、プラスチック製容器包装や紙製容器包装の分別率が低下してきているほか、衣類・布類や雑がみの分別率が名古屋市全体で1割程度に低迷しています。

また、犬や猫によるフンや尿の被害についての相談などが多く寄せられており、災害時のペットの安全対策については周知が十分でない現状があります。

課 題

- ◆区民、事業者と行政などが協働し、区民及び来訪者にとってきれいで住みよいまちとするため、快適なまちづくりを進める必要がある。
- ◆正しい分別方法を周知して分別を徹底し、より一層の資源化の推進を図り、無駄なく利活用することが重要である。
- ◆犬や猫の適切な飼い方について、飼主だけでなく地域全体に周知する必要がある。
- ◆災害時のペットの安全対策についての啓発を進めていく必要がある。



施策 11 きれいで住みよいまちづくりを進めます

環境意識向上のための清掃活動等の実施

市民・事業者・行政が一体となって、清掃活動や啓発活動を実施し、環境意識の向上を図ります。

実現させる
ための
方策

FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023



施策 12 持続可能な循環型都市をめざします

実現させるための方策

家庭系ごみの分別推進

分別が不十分な集合住宅を選定して分別推進員による立ち番やポスティングによる啓発を行うとともに、小学校等で児童・生徒に対し講座を開催し、各家庭での分別・リサイクルやプラスチックごみによる海洋汚染と発生抑制の取り組みについて考える機会を提供します。

また、集団資源回収を行っている団体に対して、年度ごとの更新手続きなどの機会に、古紙、衣類・布類の資源化の啓発や取り組みについて説明し、協力の依頼を行います。



シャチのジュンちゃん

事業系ごみの分別推進

事業系古紙の資源化率が低いことを踏まえ、大規模オフィスビル等に対する立入指導等の機会に啓発チラシを用いて広く古紙の再資源化を呼びかけます。



施策 13 人と犬猫が共生できるまちづくりを進めます

実現させるための方策

犬や猫の適正飼養の啓発

イベント等を通じて飼い方のマナーアップの啓発を行います。また、ペットの災害対策について意識の向上を図ります。

猫のフン害等に関する取り組み

飼主のいない猫によるフン害等に関して、効果的な対策を提案し、快適な環境をめざします。



指 標	現状値	目標値
ごみのポイ捨てが少ないと思う人の割合	78.5%	83%
以前に比べ犬のフンを放置する人を見かけなくなった人の割合	64.3%	75%

